

伊勢原市総合運動公園再生修復方針検討委員会設置要綱

(名称)

第1条 この会は、伊勢原市総合運動公園再生修復方針検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 伊勢原市総合運動公園については、昭和63年に供用開始して以来29年が経過し、施設の経年劣化等が指摘されている。さらには人口減少・少子高齢化・市民ニーズの多様化などにより、公園の役割も変化している。そうした状況に的確に対応していくため、立地条件や再整備のための課題や条件を整理し、総合運動公園再生修復に係る基本的な方針、配置計画などを検討することを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員で組織する。

2 委員は、優れた識見を有するもののうちから、市長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

2 委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

3 委員長は会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長が必要と認めたときは、会議に委員以外の出席を求めることができる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、都市部みどり公園課において処理する。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年12月26日から実施する。

伊勢原市総合運動公園再生修復方針について

■伊勢原市総合運動公園再生修復方針について

スポーツ競技施設を中心とする本公園であるが、市民ニーズも多様化し、求められる役割や機能も変化してきている。より多くの市民に利用される公園をめざして、再生修復の基本方針を決定し事業化に繋げていく。合わせて市のシンボル公園として伊勢原市の将来像を踏まえた公園整備のあり方や新たな魅力形成の検討等行う。検討に際しては(仮称)再生修復事業の方針検討委員会を設置し、再生修復事業の方針を作成する。(開催回数は3回を予定する)

平成 29 年度 伊勢原市総合運動公園再生修復方針検討委員会

開催予定	検討テーマ
第 1 回 12 月 26 日 (火)	伊勢原総合運動公園に係わる課題の整理確認と再生修復事業の考え方の検討。 総合運動公園の現状や伊勢原市における役割等を踏まえ、再生修復にむけた課題を提示する。 また、再生修復にあたってのコンセプトと基本的考え方を提示し、次回土地利用案の提示に向けて土地利用の大きな考え方を提示。 ・前提条件の整理（上位計画、市民ニーズ、施設概況等） ・計画条件・課題の整理 ・計画内容の検討及び設定
第 2 回 2 月上旬予定	再生修復事業の土地利用計画及び施設整備内容の検討 土地利用計画案として施設のイメージ(新規や改修のイメージ)やその配置構成を提案。 ・土地利用計画案 ・施設整備内容の検討 ・概算事業費等
第 3 回 3 月中旬予定	再生修復事業の方針検討についてのとりまとめ 委員会における指摘を踏まえ、施設や配置構成の見直し等を図り、再生修復事業の方針を確定。 ・方針検討案のとりまとめ

伊勢原市総合運動公園 再生修復事業 検討委員会名簿

資料-4

No.	委員	肩書	名前	備考
1	緑地の効用と環境管理、パークマネジメント等に専門知識を有する者	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 准教授	ふくおか たかのり 福岡 孝則	
2	自治会からの推薦を受けた者	自治会代表	たかやま こういち 高山 廣一	
3	施設の市民利用全般に識見を有する者（体育関係）	伊勢原市体育協会会長	たなか のぼる 田中 昇	
4	施設の市民利用全般に識見を有する者（観光関係）	伊勢原市観光協会代表理事	めぐろ ひとし 目黒 仁	
5	施設の市民利用全般に識見を有する者（子育て関係）	児童委員・民生委員 (主任児童委員)	いわさき としかず 岩崎 敏一	
6	施設の市民利用全般に識見を有する者（学校関係）	伊勢原市小学校校長会長	もみやま ただのり 靱山 忠範	
7	指定管理者	元気な伊勢原づくり協同事業体	たかぎ みちあき 高木 通彰	
8	一般公募		やまみや やすのぶ 山宮 安延	
9	一般公募		いなば まさひろ 稲葉 雅弘	

伊勢原市総合運動公園 再生修復方針検討委員会

第1回資料

第1章 計画の前提		
1-1 本事業の目的	1	2-2 歴史文化
1-2 計画地の位置及び面積	1	2-3 伊勢原市まちづくりの方向
1-3 伊勢原市総合運動公園の沿革	1	(1) 伊勢原市第5次総合計画
(1) 既定計画の確認	1	(2) 都市計画マスタープラン
1-4 周辺地域概況	2	(3) 緑の基本計画
(1) 人口	2	(4) 伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画
(2) 気候	2	(5) 防災
(3) 土地利用	2	2-4 市民ニーズ
第2章 計画条件の整理		(1) 市民の体力・スポーツに関する調査
2-1 総合運動公園の概況	2	(2) 総合運動公園再生へのアンケート
(1) 施設概要	2	2-5 計画条件・課題の整理
(2) 利用状況	4	10
(3) 駐車場の利用状況	5	
(4) 地形構成	5	
(5) 動植物	6	

第1章 計画の前提

1-1 本事業の目的

伊勢原市総合運動公園は、市内で一番大きな公園としてスポーツ施設と共に桜の観賞や遊具整備、イベントの開催等、多様なレクリエーションが展開し、広く市民に親しまれている。

本公園は開園から約30年を迎え、施設の老朽化や利用面での課題、市民ニーズ等から、施設や土地利用を見直し、合わせて市のシンボル公園として伊勢原市の将来像を踏まえた公園整備のあり方や新たな魅力形成の検討等、再生修復方針を策定するものである。

検討にあたっては競技施設となる伊勢原市体育館、野球場以外の、園地空間を主体として検討する。

1-2 計画地の位置及び面積

伊勢原市総合運動公園は、伊勢原駅より北に約2.5kmに位置する面積15.4haの運動公園（昭和63年8月1日供用開始）である。

検討範囲は、伊勢原市総合運動公園全体、自由広場、芝生広場、中央広場、展望広場、調整池を含む周辺部約15.4haを対象とする。

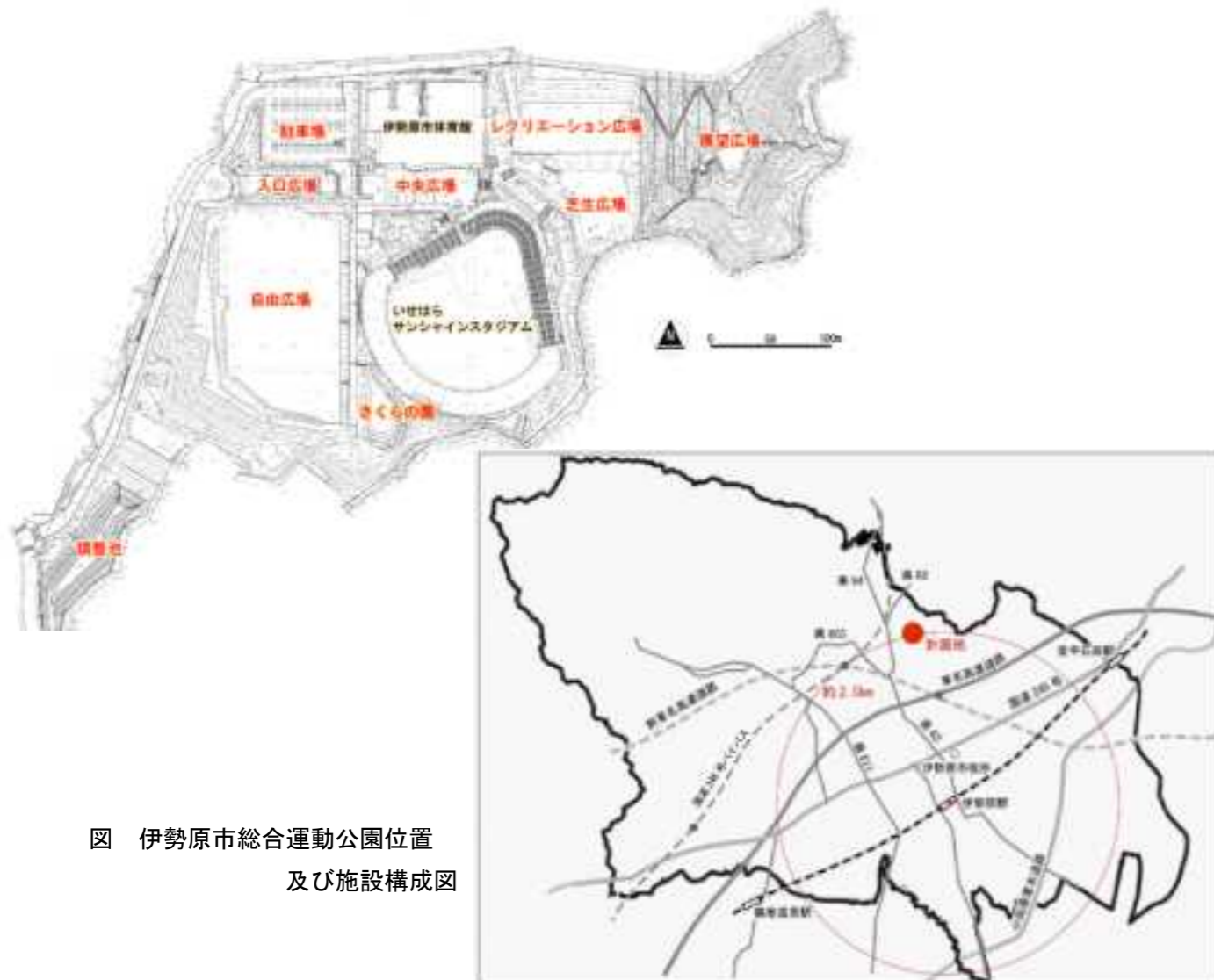


図 伊勢原市総合運動公園位置及び施設構成図

1-3 伊勢原市総合運動公園の沿革

伊勢原市総合運動公園は、昭和48年10月伊勢原市総合計画による土地利用構想のなかで、スポーツ・レクリエーションエリアの設定が方向づけられた。

さらに昭和54年伊勢原市諸計画策定基礎調査において、市民の整備希望施設の第一に「公園・スポーツ・レクリエーション」があることから、本公園を『緑のマスタープラン』で総合運動公園として位置づけ、都市計画事業として整備することとなった。

- 種 別 : 運動公園 15.4 ha
- 都市計画決定告示 : 昭和57年8月3日（1982年）
- 設 置 : 昭和63年8月1日（1988年）
- 供用開始 : 昭和63年8月1日（1988年）

(1) 既定計画の確認

『伊勢原市総合運動公園施設づくり市民フォーラム』

伊勢原市では、昭和59年度より「伊勢原市総合運動公園施設づくり市民フォーラム」という団体を組織し、市民の要望を踏まえ、総合運動公園の将来計画平面図を作成している。

この計画では、現在整備されている総合体育館、野球場に加え、テニスコート6面（現在のレクリエーション広場、芝生広場の位置）が計画されている。また、自由広場は、陸上競技場的な施設として計画されている。

その後、公園整備を行ったが、テニスコート部分、自由広場部分（陸上競技場的な施設）については、施設整備は行わず、暫定供用部分として現在に至っている。



図 伊勢原市総合運動公園構想図

1-4 周辺地域概況

(1) 人口

伊勢原市は区画整理事業等、都市基盤整備推進により人口の順調な伸びを続け、平成年には人口10万人を突破した。

しかし、全国的な傾向と同様に、人口減少・少子高齢化は進展がみられ平成23年より緩やかな減少に転じている。

平成27年現在、100,675人となっている。

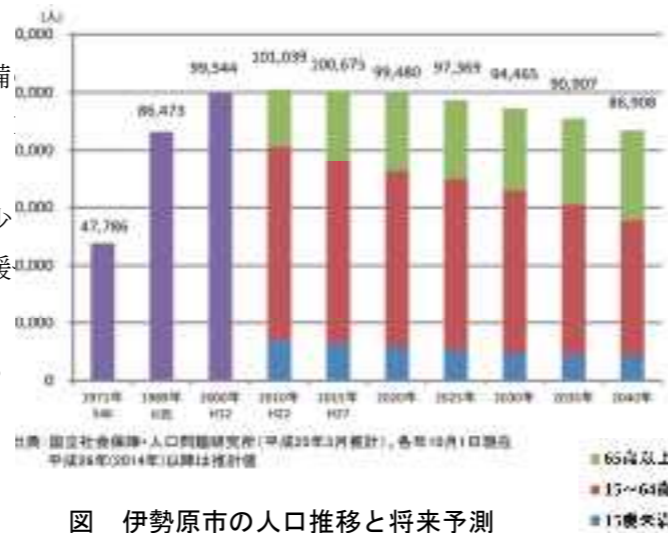


図 伊勢原市の人口推移と将来予測

(2) 気候

伊勢原市は、東日本型の東海関東型に属し、比較的温暖な気候を有している。(平成25年の年間平均気温16.1℃)

北西に大山を有する地形から、県内他地域と比較して降雪は少なく、適度な降雨と温暖な気候となっている。

(3) 土地利用

市域の約2割が市街化区域、約8割が市街化調整区域となっており、農地、森林が約6割を占めている。大山の山頂から麓に至る緑の景観はほとんどそのままであるが、計画地周辺を含め市街地や里山空間は大きな変化を遂げている。

市内では現在、新東名高速道路、厚木秦野道路(国道246号バイパス)といった広域幹線道路とそのインターチェンジ建設が進められている。



図 伊勢原市広域幹線道路事業

第2章 計画条件の整理

2-1 総合運動公園の概況

(1) 施設概要

①周辺土地利用

計画地は北側に成城学園総合グラウンド、南側に専修大学グラウンドが立地する。

また、西に大山連峰、南に伊勢原市街地を望む、眺望豊かな立地にある。

計画地東側に立地する雑木林は、南北に線状に連続し、東側で東富岡公園、南側で「市民の森ふじやま公園」に連担し、自然散策路で連続している。

(自然散策路全長約6.5km、1周約3時間)

また、将来的には第2東名高速道路が計画地南側に通る予定で現在建設が進められている。

②施設概要

総合運動公園に立地する主な施設の概要と現状の課題を整理する。



図 施設配置図

スポーツ施設 ※本計画対象外	
伊勢原市総合体育館 	伊勢原市の中心的な体育館でスポーツ各種の大会やイベント会場として利用されている。また、各種トレーニングマシンを備えた市民の健康づくりの場として利用されている。 ○メインアリーナ : 2,100㎡ ○サブアリーナ : 527㎡ ○武道場(柔・剣道場): 486㎡ ○トレーニング室 : 168㎡ (ラジックマシン、自転車、ウェイト等)
いせはらサンシャインスタジアム 	伊勢原市唯一の観客席を備えた硬式対応野球場。高校野球予選会等県レベルの大会で利用されている。 ○グラウンド両翼 95メートル、センター120メートル 内野…クレイ舗装、外野…天然芝舗装 ○観客席・収容人数 15,000人(内野5,000人、外野10,000人) ○その他:本部席、スコアボード、ナイター照明等
公園部分	
入口広場 	
○現況:公園東側バス停部より駐車場に接続するまでの約100mの舗装空間。ケヤキ並木と石垣が続く、重厚なメインストリートで約1mの段差で5段の広場で構成される。広場南側にはスロープが設置され、上部に藤棚が続き、公園を代表する花修景を形成する。	
中央広場 	
○現況:入口広場から続く舗装空間。ケヤキ並木が広場を特徴づけ、また大きな緑陰を形成している。本公園の主要施設である総合体育館とサンシャインスタジアムの接続広場となることから多くの利用者が滞留する。このためイベント時に模擬店等で利用されている。	

自由広場 	
※西方に大山連邦を望む 約15,000㎡、 ダスト舗装。	
○現況:グラウンドゴルフ、サッカー、野球場利用のアップの場として利用されている。(利用内容により全面利用、1/2利用)。利用は市内を対象とした登録制で、予約がない場合、一般に貸し出している(無料)。一般利用においても必ず、事務所にて受付を行う。土日はほぼ、満杯の状況である。イベント時は臨時駐車場として利用(約500台収容)。野球場や体育館での大会利用の際は、駐車場の不足が懸念されるため、同時に自由広場の予約を要請し臨時駐車場を確保している。	
さくらの園 	○現況:自由広場南側の小高い小広場。サクラに囲まれた落ち着いた芝生空間。サクラ開花時にはライトアップされる。
レクリエーション広場 	○現況:約3600㎡、ダスト舗装。現在は駐車場として活用している。(普通車124台、大型5台収容)遊具のある芝生広場に隣接することから幼稚園バスや親子連れはここに駐車している。大会及び大会以外でもチーム移動にバスを利用する場合は大型車を駐車させている。
芝生広場 	○現況:平坦な芝生広場。複合遊具(2017年3月設置)と滑り台、砂場等が設置されている。

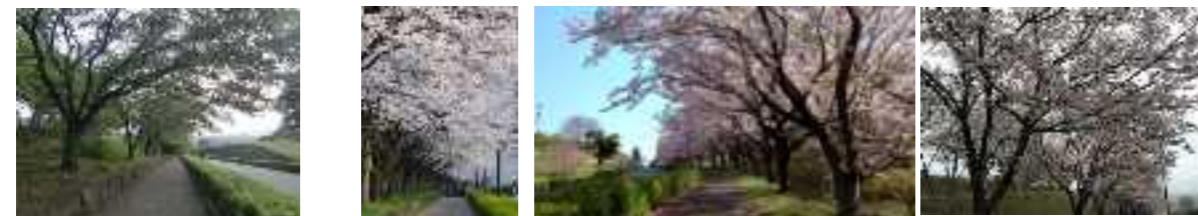
展望広場



西側大山連峰を望む 南側伊勢原市街地を望む 展望広場 芝生広場より展望広場を望む

○現況：本公園の最高標高で、2段（130.3、135.2）の芝生空間で構成され、ソメイヨシノやヤエザクラ、ケヤキ等が単木で植栽されている。
 広場より西方に大山連峰を望み、南側は伊勢原市街が展望できる。
 天気が良く、空気が澄んでいる日には遠く江ノ島まで見ることができる。
 隣接するレクリエーション広場とは約30mの高低差となる。
 展望広場西側は、造成法面（1：2斜面）にイロハモミジやドウダンツツジ等紅葉木が多く植栽されている。その他は自然地形の斜面にクヌギ、コナラ等落葉広葉樹の樹林が広がる。
 東側樹林外周部に自然散策路が通り、東富岡公園へ連絡している。

サクラ並木



桜並木と歩道 開花時の様子

○現況：約400mつづく、サクラ並木は本公園の代表する花修景で、桜フェスタ時はルート沿いに提灯での夜桜を楽しめる。
 桜植栽沿いの斜面には梅やイチョウも上段に植栽されている。
 桜開花期以外でも紅葉時や夏の緑陰等、表情豊かな並木景観を形成している。

イチョウ並木



イチョウ並木 黄葉時の様子 ※並木前方に大山を望む

○現況：約200mつづく、イチョウ並木は黄葉時には黄色い絨毯が広がる。自由広場からは並木前方に大山を望む特徴的な景観を呈する。
 イチョウは黄葉と共に銀杏拾いも楽しめる。
 公園の裏側にあたるため、利用者が気付くことが少なく、隠れた人気スポットとなっている。

調整池



調整池下流(南側) 調整池中央部 調整池上流(北側) トンボの飛来

○現況：公園の最下段に立地する調整池。常時水面部への階段（擬木階段）や護岸処理に自然石を用い、景観性に配慮した整備が行われている。
 常時水面を有することから、コイが生息し、トンボ等の昆虫も多い。

駐車場



○現況：普通車 177台
 駐車場は慢性的に不足傾向で、基本的に体育館、野球場での大会利用の際は、自由広場を駐車場として活用している。

自然散策路



芝生広場南側 標識 展望広場東側 炭焼き小屋(展望広場東側)

○現況：本公園より、北側に東富岡公園、南側に市民の森ふじやま公園を結んでいる。
 公園北側、展望広場の東側樹林沿いのルートには、炭焼き小屋が立地する。また周囲の樹林地はNPO いせはら森の会により『みんなの森づくり事業』として花木の植栽やヤマユリ・カタクリ等下草の育成管理を実施している。

(2) 利用状況

①施設利用

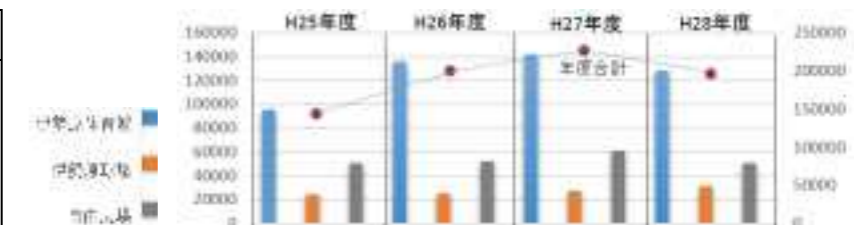
総合運動公園としての公園利用者数の計測は行われていないが、施設利用に対し利用者登録を実施する「伊勢原体育館、伊勢原球場、自由広場」については、利用人数が計測されている。

平成28年度の実績では、伊勢原体育館で約13万人、伊勢原球場で約3万人、自由広場で約5万人となり、施設利用だけで約21万人が来園している。

近年の利用実績を見ても概ね全体で21万人から23万人の来園がみられる。

(※平成25年度は11月から3月まで大体育室天井工事、平成28年度は床面工事で利用不可となり利用者減となっている)

平成28年度施設利用者の実績		
伊勢原体育館	128,754人	合計 214,761人
伊勢原球場	31,210人	
自由広場	51,016人	



②主なスポーツイベント

■伊勢原市総合運動公園を開催場所とする主なスポーツイベント

■伊勢原市総合運動公園を開催場所とする主なスポーツイベント		
スポーツイベント名	使用施設	競技等
伊勢原市総合体育大会	体育館	少林寺拳法、卓球、バドミントン
	伊勢原球場	野球
	自由広場	サッカー
市民走れ走れ大会	本公園園路広場及び隣接道路	公園内にコース設定(1,2,3,5km J-入)
伊勢原駅伝競走大会	本公園及び専修大グラウンドの園路広場及び東富岡地区	公園をスタート、フィニッシュ地点とする。(5区間 17.55km)
高野連選手権大会硬式・軟式地方予選	伊勢原球場	
伊勢原市障害者スポーツ大会	体育館	30メートル競走、大玉転がし、パン食い競争など
すこやか少年少女スポーツフェスティバル	体育館	バレーボール、フットサル
	伊勢原球場	野球
	自由広場	陸上競技、サッカー
■その他定例イベント		
体育館：県高体連剣道予選、伊勢原高校杯、小学生柔道大会、市バスケットクリスマスカップ等 伊勢原球場：ろう社会人軟式野球大会、県専門学校体育大会、伊勢原ホースウィーズクラブウィーズカップ等		

③主な交流イベント

■公園全体を活用する主要イベント	
イベント名	概要
桜フェア 平成 29 年は 3/31~4/2	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトアップには 2,700 人来園 ・期間中の土日を中心に飲食ブースや子供向けイベント、オーガニックマーケット開催。
いせはら芸術花火大会 平成 29 年は 4 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・約 20,000 人が来園。 ・花火はレクリエーション広場より打上げ、観客席は自由広場。 ・当日は日産テクニカルセンターを駐車場とし総合運動公園までをバスでピストン輸送。
公園緑花まつり 平成 28 年は 5 月 14.15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・約 25,000 人が来園 ・当日は模擬店の他、そば打ち体験やダンスの発表、フリーマーケット等各種イベント実施。
ふれあいマーケット 平成 29 年は 9 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> ・約 5,000 人が来場 ・フリーマーケット、オーガニックマーケットの他、各種イベント実施。
■その他定例イベント	
中央広場	：ふるさと伊勢原おやこ写生会、伊勢原文化祭菊花展

(3) 駐車場の利用状況

駐車場は日常的な利用では、現況駐車場に対応しているが、スポーツ大会や交流イベント開催時は、大きく不足する。

指定管理者は、体育館や野球場で実施するスポーツ大会の予約の際、必ず自由広場を臨時駐車場として確保するよう主催者に指導している。

また、交流イベントの際は隣接する成城学園や日産テクニカルセンターに駐車場の確保を依頼している。(それでも駐車場の不足から県道 63 号線に渋滞をおこしている)

	日常的な利用 (土日を含む)	スポーツ大会時	代表的な交流イベント	
		高校野球予選や高体連(バレー、バスケ)の大会	ふれあいマーケット等	いせはら芸術花火大会
駐車場	普通車 177 台	普通車 177 台	普通車 177 台	—
自由広場	—	普通車 500 台	普通車 500 台	—
レクリエーション広場	—	普通車 124 台 大型車 5 台	普通車 124 台 大型車 5 台	—
その他	—	—	成城学園内に普通車 100 台	日産テクニカルセンターに駐車場確保
駐車場体制	普通車 177 台	普通車 800 台	普通車 900 台	—
	レクリエーション広場は、芝生広場等公園上部利用のため常に 20 台程度停車		イベントにより、レクリエーション広場をイベント会場とする場合もある。	全て日産テクニカルセンターよりピストン輸送。公園内は関係者のみ

(指定管理者へのヒアリングより)

(4) 地形構成

計画地は丘陵部に階段状に造成されて施設が配置されている。

このため、敷地の大半が造成地となり、自然地形は展望広場の東側斜面地と野球場南側斜面地に一部残される。

計画地の高低差は、入口部の 57.4 から、展望広場の 135.0 まで、約 77.6m に及ぶ。

特に子どもの利用の多い、芝生広場(103.0)は、中央広場(90.3)と約 13m の高低差を生じており利用面で障害が考えられる。

造成法面は、1:2 の勾配を基本とし、一部、芝生広場(1:5)、レクリエーション広場北側法面(1:4)、調整池北側法面(1:3)の緩勾配での整備が見られている。

また自然地形は斜面地はいずれも 40% 以上の急斜面となり、クヌギ、コナラ等の落葉広葉樹が分布している。

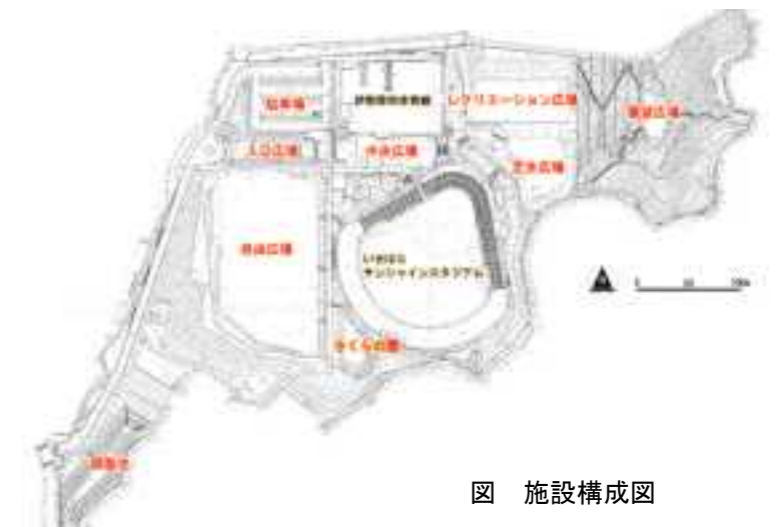


図 施設構成図



(5) 動植物

①動物

計画地における自然環境調査は実施されていないが、近隣で実施された国道246号バイパスの環境影響予測評価書の動物調査では、おおむね都市近郊でみられる動物種が確認されたほか、特に注目すべき種として次のものが確認されている。

網名	目名	科名	種名
鳥類	コウノトリ	サギ	コサギ
両生類	カエル	アオガエル	シュレーゲルアオガエル
昆虫類	トンボ	オニヤンマ	オニヤンマ
	カメムシ	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ
	コウチュウ	オサムシ	キボシアオゴミムシ
	チョウ	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ、
		ヤガ	コシロシタバ



(出典:「厚木秦野道路(一般国道246号バイパス)事業
[厚木市中依知~秦野市八沢]環境影響予測評価書案 平成6年2月 神奈川県)

②植物

計画地は大半が造成地で自然植生が分布するのは、東側丘陵部に限られる。丘陵部の植生はクヌギ・コナラ群集に属する。

クヌギ・コナラ群集

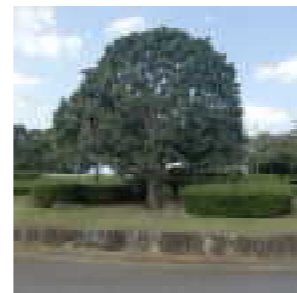
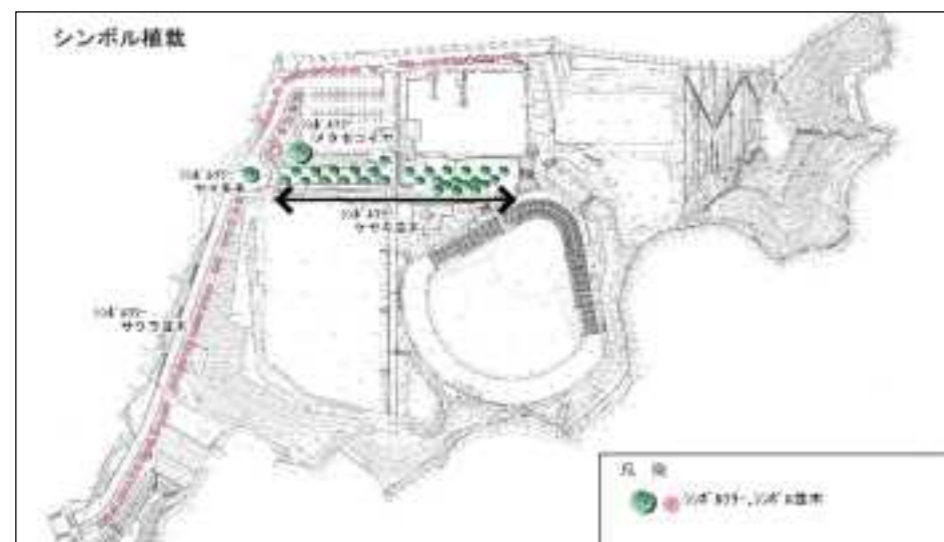
- 高木層 : コナラ、クヌギ、イヌシデ、ミズキ、アラカシ等
- 亜高木層、低木層 : エゴノキ、エノキ、シラカシ、モチノキ、アオキ等
- 草本層 : アズマネザサ等

その他は運動公園建設に際して植栽された緑化樹が主体となる。植栽の中で特に修景的に特徴をなす花資源、景観資源について位置と内容を示す。

i. 花と木



ii. 公園のシンボル



2-2 歴史文化

伊勢原市の歴史文化の特徴としては、奈良時代に日向山^{ひなたさんりょうぜんじ} 靈山寺や大山寺が開創されたほか、高部神社や比々多神社、阿夫利神社など古くから神社が開かれていた。

室町時代には関東管領上杉氏の一族である扇谷上杉の館が築かれ、文明18年(1486)には、太田道灌は主君である同家当主の招きにより当地を訪れたところを暗殺され、計画地の近隣にその墓がある。

計画地周辺では、これら歴史文化にかかわる文化財等が立地し、市のウォーキングガイドにおいて本公園を起点としたモデルコースが設定されている。

計画地に隣接し、モデルコース内に立地する歴史文化財についていかに整理する。



図 計画地周辺指定・文化財分布
「伊勢原市指定・登録文化財マップより抜粋」

〔市指定文化財〕

- 実時原古戦場(図中NO58)
文明18年大田道灌の暗殺後、扇谷上杉氏と山内上杉氏の間で争いが始まり、長享の乱(調教の乱)が勃発し、戦乱は北関東からこの地まで及んだ。
- 上杉館跡(図中NO45)
文明18年大田道灌はこの地にあった上杉氏の「府第(ふてい)」に招かれ、暗殺された。
- 大田道灌の墓(図中NO52)
上粕屋にある曹洞宗、幡龍山(ばんりゅうざん)洞昌院の境内の一角にある。本寺は15世紀の武将、大田道灌が中興開基となる。

〔国登録文化財〕

- 小澤家住宅(主屋、表門、庭塀)(図中NO15)
- 山口家住宅(主屋、離れ)(図中NO16)

・計画地周辺には、伊勢原市を代表する歴史文化資源が立地し、本公園がその探勝ルートの起点として位置づけられる。このため、情報・サービス機能の充実が求められる。

2-3 伊勢原市のまちづくりの方向

(1) 伊勢原市第5次総合計画

総合計画では、市の将来都市像である『しあわせ創造都市伊勢原』の実現に向けて、「暮らし力」「安心力」「活力」「都市力」「自治力」の5つの力が示されている。

総合運動公園の再整備にあたり、「暮らし力」から『健康づくりの推進、子育て支援、子どもの成長支援』、「安心力」から『地域防災への貢献』、「活力」から『交流と賑わいの形成』、「都市力」から『バリアフリーへの対応』、「自治力」から『市民協働の推進』の6つの施策が展開されている。

本公園の再生修復事業は、『中期戦略事業プラン』において戦略的に進める事業に位置づけられており、上記施策の展開を公園再整備を通して実現することが求められている。

(2) 都市計画マスタープラン

本公園は地域別構造の『おか』の地域に位置し、『安全・安心の暮らせる都市づくり』、『個性と魅力にあふれ環境と共生する都市づくり』が方針づけられている。

本公園は、広域的な防災活動拠点として防災機能の強化と都市基幹公園として機能の充実や施設の更新が求められている。また、公園資源をいかして個性と魅力ある景観形成の実現が求められる。

(3) 緑の基本計画

① 公園緑地体系における本公園の位置づけ

伊勢原市の都市公園は145か所整備され、総合運動公園は、市内で一番大きな公園として位置づけ、運動施設だけでなく幅の広いレクリエーションの場として親しまれている。

本公園は、体育館・野球場・自由広場など、競技スポーツから身近な健康づくりの場として利用され、また、遊具や樹林地、桜など多くの魅力要素を持つことから、市を代表するイベントの開催等、市民のシンボリックな公園として位置づいている。

現況の市内公園緑地の整備では、市街地を中心に街区公園等の小規模な公園が展開し、北西部には、大山を中心とする山間部の自然を対象とする自然公園や県営公園が展開している。本公園は、これら市街地と山間部の中間域となる丘や里が展開する丘陵域に立地する。

表 主要公園の概要(5000㎡以上)

公園	面積(㎡)	施設概要
総合運動公園 (本計画地)	154,000	総合体育館、野球場、自由広場、遊具、桜等、樹林地等 市を代表するイベント空間
東富岡公園	8,695	テニスコート、広場、遊具、樹林地等
市民の森ふじやま公園	25,110	フィールドアスレチック、芝生広場、桜、樹林地等
千津ふれあい公園	10,622	遊具、広場、緑地等
谷戸岡公園	9,855	遊具、広場、緑地等
鈴川公園	20,100	野球場、テニスコート、屋外プール等
市ノ坪公園	9,996	テニスコート、自由広場(野球利用)、遊具広場等
歌川公園	6,695	芝生広場等
丸山城址公園	24,540	芝生広場、遊具等
緑ヶ丘公園	14,591	フィールドアスレチック、芝生広場、樹林地等
永窪公園	6,759	遊具、芝生広場等
城ノ腰公園	10,233	遊具、広場等
県営いせはら 塔の山緑地公園	約130,000	自然散策道、展望広場等

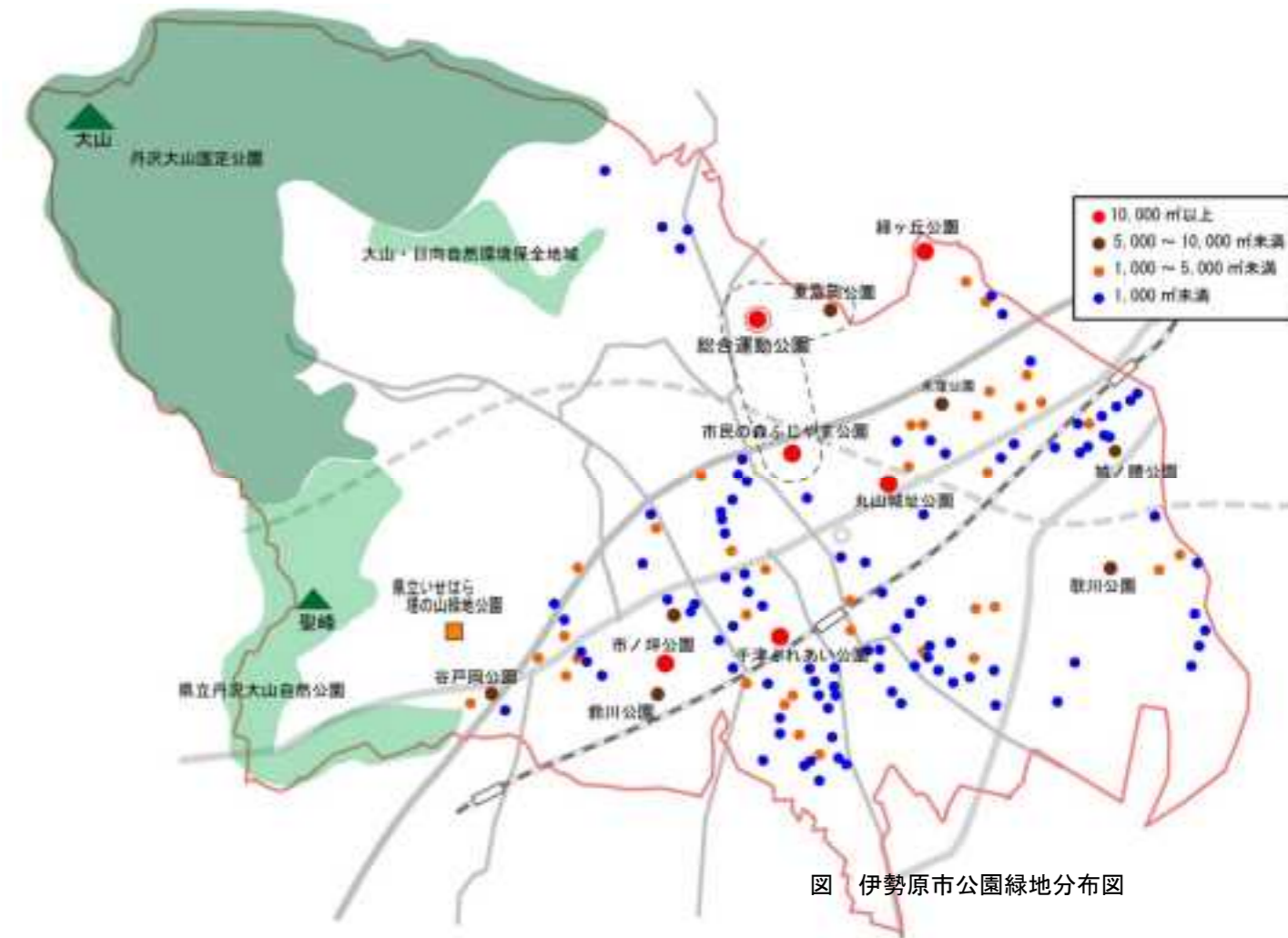


図 伊勢原市公園緑地分布図

② みどりの将来像における方向性

緑の基本計画では、『自然と共生する水と花と緑の伊勢原』を将来像とし、本公園は中核的な公園として次のような整備が求められている。

- 施設、遊具の整備による市民の憩いの場の充実。
- 公園及び周辺樹林を活かした里山体験、自然とのふれあい活動の場の創出。
- 市民の森ふじやま公園や丸山城址公園とのネットワーク化によるレクリエーション拠点の形成をめざし、特に自然散策路で結ばれる市民の森ふじやま公園とは自然散策を軸とした機能的な連携を目指す。

(4) 伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画

市民が主体の生涯スポーツ社会の実現を目指す伊勢原市では、生涯スポーツの推進に向けて次のような展開を目指している。

- 子どもから高齢者、子育て中の女性や幼児、障がい者までが参加できる
- 身近な健康づくりの場の整備

(5) 防災（「伊勢原市地域防災計画」（平成26年3月）

計画地は住民の避難場所と共に災害対策の重要地として次のような役割を担う。

○地震災害時

＝避難場所＝

広域避難場所：市総合運動公園 [対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里]
 広域避難場所は、地震災害に伴う大規模火災による輻射熱や煙等の危険から身を守るための場所

広域避難所：市体育館（大体育室、武道場）
 [対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里]
 広範な被災により自主防災会単位で避難生活を行う必要がある場合等を想定し、多数の被災者等を受け入れるための場所

＝ヘリコプター臨時離着陸場＝

市指定ヘリコプター臨時離着陸場：
 総合運動公園自由広場（110×165m、約18,000㎡）

＝応急仮設住宅候補地＝

応急仮設住宅建設候補地（第2次）：
 総合運動公園

＝広域応援活動拠点＝

自衛隊広域応援活動拠点：
 総合公園（自由広場、野球場）
 広域応援部隊の円滑な受け入れを行うため広域応援活動拠点に指定

＝応援ボランティア活動拠点＝

応援ボランティア宿营地：
 総合運動公園（入口広場、中央広場）

＝緊急輸送道路＝

市内の県指定緊急輸送道路（第1次緊急輸送道路）：
 計画地に接続する県道63号線
 緊急輸送の骨格をなす路線として指定

○風水害時

＝避難場所＝

広域避難所：市体育館（大体育室、武道場）
 [対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里]
 広範な被災により自主防災会単位で避難生活を行う必要がある場合等を想定し、多数の被災者等を受け入れるための場所



図 伊勢原市風水害ハザードマップ



図 伊勢原市地震防災マップ

2-4 市民ニーズ

(1) 「市民の体力・スポーツに関する調査」（平成22年5月）

○公共スポーツ施設への要望

[施設の増加、アフタースポーツのための施設、運動する場の安定性・快適性を求める]

公共スポーツ施設にどのようなことを望むかについては施設の増加（40.6%）、運動する場の安定性・快適性の推進（29.8%）、次いでアフタースポーツのための施設（レストラン等）の充実（15.9%）が期待されている。

運動・スポーツ施設への要望（複数回答）

項目	人数	割合(%)
施設の増加	829	40.6
アフタースポーツのための施設(レストラン等)の充実	325	15.9
託児施設の充実	126	6.2
施設のバリアフリー化の推進	154	7.5
運動する場の安定性・快適性の推進	609	29.8
合計	2043	100.0

(2) 「総合運動公園再生へのアンケート」（平成28年度）

総合運動公園の再生に向けて、利用実態や改善要求についてアンケートを実施した。

(アンケート回答者は、一般市民とともに市職員の合計509人)

○総合運動公園利用の主たる目的

競技施設を利用する団体利用と共に、個人の運動や健康づくりのために利用する人も多い。また、子どもや孫と遊ぶ場としても利用されていることがわかる。

○総合運動公園への主な交通手段

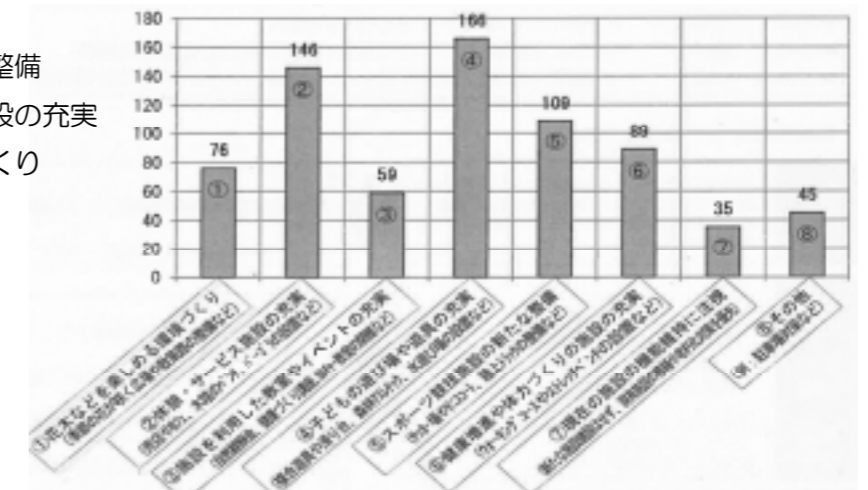
約90%の人が自家用車を利用し、次いで徒歩利用（12.5%）、自転車・バイク（8.3%）で、バス・タクシー利用は4%程度となっている。

○総合運動公園の利用を増やすための改善要求について

総合運動公園の利用を増やすには、どのような改善が必要と思うかの問いに対し、次のような回答が上位を占めている。

[利用を増やすための改善上位5位]

- ①子どもの遊び場や遊具の充実
- ②休憩・サービス施設の充実
- ③スポーツ競技施設の新たな整備
- ④健康増進や体力づくりの施設の充実
- ⑤花木などを楽しめる環境づくり



2-5 計画条件・課題の整理

前提条件より、本事業への計画条件や課題を整理する。

